

令和3年度 山陽小野田市立山口東京理科大学
数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検評価

1 高校生に対するプログラム意識調査アンケートの実施

山口県、岡山県、広島県、島根県、愛媛県、福岡県、大分県に所在する高等学校の中から、令和4年度に大学進学時期を迎える高校2年生を対象に、本学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関するアンケート調査を外部機関に委託し実施した。

調査対象：令和4年度に大学進学時期を迎える高校2年生をアンケートの対象とした。本学が立地する山口県をはじめ、本学への志願者が多い中国・四国・九州の近隣県で、国公立大学志願者が一定数存在すると思われる高校にアンケート実施を依頼し、48校にご協力頂いた。

調査内容：数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認知度と意識調査

調査時期：令和3年10月～11月

調査方法：アンケート実施の了承が得られた高校に高校生アンケート用紙（必要部数）を送付し、各校の教職員から調査対象者（高校2年生）にアンケート用紙を配布の上、回答時間を設け、その場で回収頂いた。

回収件数：48校6,139人（公立34校4,745人、私立14校1,394人）

委託機関：株式会社高等教育総合研究所

(1) AI戦略に対する認知度

「政府は、日本のすべての大学生・高等専門学校生が、初級レベルの数理・データサイエンス・AIの知識を習得する計画（AI戦略）を進めています。このことを知っていますか。」という質問に対し、「よく知っている」1.9%（114人）、「聞いたことがある」13.9%（854人）、「知らなかった」66.9%（4,109人）、「よく分からない」16.7%（1,027人）、「無回答」0.6%（35人）と回答し、高校生の約83.6%が政府のAI戦略を知らないことが分かった。

(2) 山口東京理科大学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」への意識

次に、山口東京理科大学では、在籍する学部・学科に関わらず、数理・データサイエンス・AIの基本を学ぶことができるようにしていることを示し、感想としてそれぞれあてはまるものについて質問を行った。

その結果、【将来に必要な知識である】に対して、「そう思う」38.3%（2,353人）、ややそう思う」46.3%（2,843人）と回答し、約84.6%の高校生が、数理・データサイエンス・AIを学ぶことが将来に必要な知識であるという認識を有していることが分かった。

さらに、本学にて【学んでみたい】かについて質問したところ、「そう思う」20.5%（1,256

人)、「ややそう思う」39.9% (2,452人)と、約60.4%もの高校生が、山口東京理科大学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムを学んでみたいと回答した。

以上のことから、高校生の約8割が、数理・データサイエンス・AIが自らの将来にとって必要な知識であることを自覚し、高校生の約6割が、本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムを学んでみたいという意欲を有していることが明らかとなった。

○ 高校生に対するプログラムの意識調査アンケート結果は [こちら](#)

2 自己点検・評価報告書の作成

大学教育質保証・評価センターの評価基準を準用してプログラムの点検・評価を行い、その結果を令和3年度点検評価ポートフォリオに掲載した。

また、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学各事業年度の業務実績評価(年度評価)実施要領を準用して、プログラムの実施状況の点検・評価を行い、その結果を令和3年度事業報告書の「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」に掲載した。

○ 令和3年度点検評価ポートフォリオは [こちら](#) (44頁参照)

○ 令和3年度事業報告書は [こちら](#) (9頁参照)

3 学修成果に基づく自己点検・評価

授業科目の点検・評価では、前年度開講した授業科目について、授業担当教員による学生の学修成果の評価を対象に実施した。

○ 令和3年度学修成果に基づく自己点検・評価結果は [こちら](#)

○ 教育効果自己点検項目

基準	自己点検項目
基準 1. 成績評価への取組み	(1) 合格率65%以上を満たしていますか。
	(2) 成績評価はシラバス記載の成績評価法に則っていますか。
	(3) 成績評価のため、試験・レポート点や平常点等の成績配点表を作成しましたか。
	(4) 他教員が点検した場合でも、成績配点表等は明瞭で分かり易いと思いますか。
基準 2. 教育改善への取組み	(1) 成績評価の結果、試験問題やレポート課題等の難易度は最適であると考えていますか。
	(2) 成績評価の結果、教授法を改善して学生の理解度を高めようと考えていますか。

4 学生アンケートを通じた学生の理解度の点検

プログラムに関する授業科目に対し、学生アンケートを行い、次の事項を点検した。

○令和3年度学生アンケートを通じた学生の理解度の点検結果は [こちら](#)

○あなたが、この科目を受講して

問 1 この授業によく出席した

問 2 この授業のために予習、復習、質問などをして意欲的に取り組んだ

問 3 授業内容をよく理解できた

問 4 この授業内容に興味をもて学習意欲が増した

○教員の授業の進め方や教え方について

問 5 シラバスの記載どおりに講義は進められた

問 6 授業に対する教員の熱意を感じた

問 7 教員は学びやすい雰囲気・環境をつくるように努めていた

問 8 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた

問 9 重要なところを強調して授業が進められた

問 10 教科書、参考書、プリントなどは授業の内容を理解するうえ

問 11 板書の仕方、スライドの使い方は適切であった

問 12 声の大きさ・マイクの使い方は適切であった

問 13 質問に対する教員の対応は適切であった

○全体的にみて

問 14 この授業によい印象をもった

5 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画

全学的な履修者数及び履修率向上に向け、令和3年度からプログラムを構成する科目を次のとおり増やした。

プログラム学習内容	科目名	単位数
(1) データ・AI は、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society5.0等）に深く寄与しているものであり、私たちの生活と密接に結びついていることを学ぶ	コンピュータ概論	2
	健康ビッグデータ解析学	2
(2) 社会で活用されているデータやデータの活用領域は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを学ぶ	健康ビッグデータ解析学	2
	医薬品情報学	2
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例を通し、数理・データサイエンス・AI は、様々な適用領域の知見と組み合わせることで価値を創出することを学ぶ	健康ビッグデータ解析学	2
	医薬品情報学	2
(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での事例を題材として「データを読む、説明する、扱う」といった基本的な活用法を学ぶ	医薬品情報学	2

○教育プログラム履修者数・履修率（令和3年度）は [こちら](#)